

国府台女子学院中学部

算数

出題形式については前年度と同じです。易しい問題を解くときもていねいに計算し、見直しの時間を取るなどして、正確に答えを求められるようにしてください。特殊算の代表的なものも習得しておきましょう。また、図形やグラフの問題演習にもたくさん取り組んでください。

国語

推薦入試は小問集合のみですが、1000字以内の短い文章からの出題があります。第1回、第2回入試は、長文問題1題（説明文か文学的文章）と小問集合になります。知識を問う小問はどの入試でも比重が高いため、よく勉強しておきましょう。漢字・熟語、慣用句・ことわざ、正しい文章表現、敬語、短文作りなどに加え、「ヒントに沿って考える力」を見る問題も出題する予定です。

理科

推薦入試は4分野（生物・化学・地学・物理）からの小問集合と、生物・地学・物理の各分野の大問を出題します。第1回・第2回は、大問5題（小問集合と、生物・化学・地学・物理の各分野の大問）になります。知識問題や計算問題を含めて基礎から応用まで、幅広く出題しますので、問題文や実験データをよく読み取り、法則や規則を見つけられるような練習をしておくといでしょう。

社会

出題傾向は例年並みです。時事的な問題も出題しますので、新聞・テレビのニュースなどに興味・関心を持つようにしてください。また、世界にも目を配る一方、日本各地の気候・風土や、各種産業、統計資料などもよく勉強しておいてください。

聖徳大学附属女子中学校

算数

大問は7～8題（小問合計16～20問）で、基本問題約30%、標準問題約40%、応用問題約30%の割合で出題しています。解答は、答えのみを記入する形式で、試験時間は50分、100点満点です。大問1は計算問題で小問は3～4問、大問2は穴埋め問題で小問は5問程度、大問3からは標準・応用問題です。割合と比、速さ・時間・道のり、食塩水の濃度、統計とグラフ、規則性、平面図形、立体図形などが頻出です。特殊算も出題していますので、さまざまな問題について解き方を習得しておきましょう。計算力、基礎・基本をしっかり身につけ、数学的な思考力・洞察力を磨いてください。

国語

大問は4題あります。まず漢字の読み書きの問題は、書き5問、読み5問で、小学校配当漢字のうち、日常使われる基本的な語彙や、受験勉強のなかで学習するであろう漢字から出題します。次は総合的な国語の知識を問う問題です。漢字やことばに関する知識、ことわざ、慣用句、四字熟語、敬語、文学史、文法などから幅広く出題します。そして、論説文の文章読解問題があります。論旨や展開を理解しているかを問う問題、筆者の考えや主張を正しく理解しているかを問う問題、傍線部の意味や理由、内容を問う問題、空欄補充問題、指示語の問題、表現技法を問う問題、脱落文挿入問題など、オーソドックスな設問です。最後に、新聞のコラムを100字で要約する問題を出します。日ごろの読書習慣を土台にして、語彙力、ことばの基礎知識、読解力、表現力を身につけるよう、意識して学習することが大切です。また、受験勉強の過程で、レベルの高い問題に数多く取り組み、実戦力と解答作成力、得点力を磨いていくことが有効です。

理科

物理・化学・生物・地学の4分野から大問を4題出題します。ただの知識ではなく、知識に関連を持たせ、「なぜそうなるのか」と思考する能力が問われます。実験結果から本質を読み取る問題や、思考の過程をたどる問題も出題しています。よって「奇問」を解く能力ではなく、知識を総合して解く能力が要求されます。現象や法則など基本的な知識は極めて重要なので、理解したうえで、さらに科学的な判断ができる応用力も身につけるなどして、答えを導き出す訓練をし、理解力を高めるようにするとよいでしょう。

社会

大問は1～3題です。地理・歴史・公民（政治経済・国際）の各分野について、分野ごとに基本的な知識を幅広く問う問題と、全体的な考える力を問う総合問題からなっています。地理分野では、日本の風土に関する基本的な知識と、地図やグラフから情報を読み取る力を、歴史分野では、日本の歴史の概要と、それぞれの時代の重要な出来事に対する読解力を、公民分野では、日本の政治の基本的な仕組みを把握しているかどうかを、それぞれ問います。社会科の基礎的な知識をきちんと理解し、本校での社会科学習に十分対応できる力をつけておくことが求められます。

英語

12月1日の第1志望入試の3科入試では英語のプレゼンテーションを行います。「My Family」「My Favorite Things」「My Dream」の三つのテーマの中から一つを選択していただきます。制限時間は3分。画用紙や写真の資料を持参することも可能です。ただし、パソコンの持ち込みは不可です。配点は60点で、内訳は、内容（構成・説得力・創造性など）20点、英語（発音・文法・用法など）20点、話し方（スピード・間・姿勢など）20点です。また、1月22日午後に英語入試を行います。この入試では、15分程度のリスニングテストと10分程度の英会話テストを出題します。レベルは英検®5級程度です。英検®のリスニングの教材等を使って練習をしてください。

和洋国府台女子中学校

算数

計算・穴埋め一行問題が 6 割程度、文章題・数量関係・図形が 4 割程度の出題です。解答を出すための考え方や、理由を記述する問題が一部にあります。計算問題の約分忘れは不正解とします。円周率は 3.14 を使う問題を出題しています。

国語

①長文の読解（文学的文章・説明的文章のうちいずれか、あるいは両方）、②表現力・言語操作能力を測る作文や長文記述、③韻文の読解、④漢字・語彙・文法・国語基礎知識などを測る問題、これら①～④のうち、2～3 種類を出題します。テクニックだけに走らないでいねいな読み取りや、経験に基づく発想力なども必要です。

理科

物理・化学分野が 4～5 割、生物・地学分野が 4～5 割の出題です。グラフや表の読み取り、実験結果から答えを求める思考力を問う問題、理由やしくみを記述で解答する問題、ニュースや話題になった科学に関する問題などもあります。

社会

地理・歴史が各 4 割程度、政治と国際社会が 2 割程度の出題です。資料あるいは知識をもとに、記述で解答する問題があります。都道府県や人物名・用語は、教科書に漢字で表記されているものについては、正しい漢字で書けるように勉強してください。

英語

新学期の授業はリスニングを中心にスタートします。その授業にスムーズに入ることができるよう、入学試験問題の 8 割以上はリスニング問題となります。小学校の英会話授業だけでなく、NHK ラジオ英語講座を聴いたり、英検®4 級問題などで練習したりしてください。

市川中学校

算数

大問は 5 題程度で、解答時間は 50 分です。自分が解きやすい問題を把握して、時間配分をしてください。計算問題や基本問題から、図形やグラフ、読解力を問う問題も出題しています。コンパス・定規は使用できません。答えが割り切れないときは分数で答えてください。仮分数でも構いません。問題文を正確に読み取り、論理的に答えを導き出す力や、式・図形を見る力、計算力を確かめたいと考えています。

国語

「物語的文章」「説明的文章」「漢字に関する問題」という問題構成です。文章の長さは、物語的文章と説明的文章を合わせて約 8700 字程度。文章の難度は例年あまり変わりません。時間配分に注意して、速く読み、速く解くことが大切です。出題傾向は 2005 年度以降ほとんど変わっていません。100 字以下の長い記述問題を 3 問ほど出題します。記述問題は答えるべき要素が入っていれば部分点を与えるので、あきらめないでください。

理科

広い分野からの出題を心がけています。大問は 4 題で、物理 1 題、化学 1 題、生物 1 題、地学 1 題の構成です。基本的な理解ができていることを問う問題が半数を占めます。パターン学習に走らず、しっかり基本を身につけてください。計算問題、用語を問う問題、身の回りの問題、論理性を問う問題を出題します。記述問題も出題しますが、そこでは採点者に伝わる正確な語で、わかりやすい説明をすることを求めています。

社会

第 1 問が歴史の総合問題、第 2 問が近現代の歴史、そして第 3 問が地理の総合問題、第 4 問が公民総合問題という全 4 題の出題です。配点の目安は、第 1 問と第 2 問が 30 点ずつ、第 3 問と第 4 問が 20 点ずつです。「漢字で答えなさい」などの指示があるものについては、必ずその指示に従って解答してください。また、一問一答式でなく、「説明しなさい」「考えて答えなさい」など、文章で答えるものもあります。その際は部分点もあります。出題傾向が大きく変わることはないので、必ず複数年の過去問を解いて本番に臨んでください。

江戸川学園取手中学校

2019年度入試から、受験科目は「4科目型（算国理社）」と「英語型（算国英）」からの選択になります。

算数

大問は7題です。計算問題や文章題、図形問題など幅広い分野から出題し、思考力を問う問題がやや多くなります。コンパス・定規・分度器は必要ありません。答えが合っていれば正解とします。2017年度から、計算過程、思考過程を見る問題が数題あります。

国語

文章問題を3題出題します。漢字の書き取りは文章問題の中で、1割程度の配点で出題します。ことわざ・慣用句、語句の意味なども数問出題します。文学史の問題はありません。また、100字程度の記述問題を出題します。

理科

4分野から大問4題を出題します。実験・観察を表す図・文章・表・グラフを見て解く形式で、各分野からまんべんなく出題しています。形式は、選択式のほかに適語記入、計算、作図やグラフなどの問題も出題します。近年は、記述問題や思考力を要する問題が増加しています。

社会

地理分野は日本地理を中心に、世界地理も出題します。歴史分野は各時代から出します。公民分野を中心に時事問題を出題します。3分野とも漢字指定の問題があります。漢字で書くべき事柄を漢字で書けるようにしておきましょう。思考力を重視した問題も出します。

英語

出題レベルはCEFR（国際基準企画）でA1からA2程度、実用英語検定で3級から準2級程度となります。ただし、マーク形式ではなく、選択式と記述式を併用します。内容は、語彙、文法、作文、長文読解などです。リスニング問題はありません。言語としての英語の知識だけでなく、論理的に物事を考える力や、コミュニケーションツールとして英語を運用できる力を試します。

芝浦工業大学柏中学校

算数

1 番は計算などの基礎力を見る小問、2 番は簡単な文章題や図形の中問、3～5 番は文章題や図形の問題です。3～5 番のうち 1 題は途中式も書いてもらいます。考え方や方法が論理的に伝われば、部分点を設定します。

国語

第 1 回・第 2 回の入試問題は、大問 3 題の構成（①漢字《パズル形式の問題を含む》、②物語文、③論説文）で、出題形式・傾向ともほぼ同じです。物語文・論説文で合わせて 200 字程度の記述問題があります。2014 年度から、第 1 回・第 2 回の大問 $\boxed{1}$ の間 1 の漢字問題が、第 3 回の問 1 のような記述問題となりました。

理科

第 1 回・第 2 回とも、物理・化学・生物・地学の大問 4 題の構成です。単なる知識だけでなく、思考力・計算力も問います。例年どおり、簡単な記述問題も出題します。総合的な内容（環境やエネルギーなど）は、物理・化学・生物・地学の大問の中で出題します。

社会

第 1 回・第 2 回の大問は、地理・歴史・公民・総合（特定のテーマで地理・歴史・公民を総合的に出題）の 4 題構成で、各分野とも記述問題を出題し、部分点を設けます。語句で答える問題の大部分は漢字指定があります。地理では世界の地理を出題しますが、新聞・テレビなどでよく見る項目が中心です。

【第 3 回入試】

課題作文と面接を実施します。

- ・人文社会系テーマ 45 分 合わせて 300～400 字
- ・理数系テーマ 45 分 合わせて 300～400 字
- いずれも簡易的な適性検査型課題作文
- ・面接(5～10 分)

人物を確認するための簡易的なものですが、2016 年度より重視しています。

昭和学院秀英中学校

本校の入試ではどの教科も各分野まんべんなく出題しています。ですから、領域や単元によって出やすい・出にくいというものはありません。むしろ、そういうことより、「基礎的・基本的」な内容の知識をしっかりと習得していることと、「自分の頭で考える習慣」を身につけていることが重要です。

算数

4回の入試とも、レベルは基本的に同じです。大問¹の小問集合は5～8問出題します。基本的な問題を中心にいろいろな分野から出題しますが、考えさせるような問題を出題することもあります。大問²以降はいくつかの小問を持つ問題です。これまで平面図形、立体図形、数の性質（整数・場合の数・数列・規則性）の範囲のなかから多く出題しています。問題は基礎から標準レベルを考えています。大問の前半の問題は、比較的基本的なもの、次の問題のヒントになるものが多いので、確実に解けるようにしてほしいと思います。午後特別入試については、試験時間は60分で120点満点です。

国語

論説・説明文と小説・物語・伝記で大問2題の構成です。論理的な文章と文学的な文章の組み合わせだと考えるとよいでしょう。漢字や慣用句などの知識問題は、独立した大問を置くのではなく、それぞれの大問のなかに含まれます。問題文の出典は、現在活躍中の著者のものがほとんどですが、昭和時代の著者や、外国文学の場合もあります。論説・説明文は、科学・言語・哲学・歴史など幅広い分野から、小説・物語・伝記は、主人公が小学生・中学生であるものが中心です。それぞれの設問では、内容の読み取り、適語（熟語・接続語・副詞など）・適文補充、指示語の内容などを選択肢から選ばせたり、本文中から抜き出させたり、制限字数内で記述させたりします。最後の設問で、全体の要旨やあらすじを振り返らせることもあります。知識問題では、漢字の書き取り・慣用句が中心ですが、漢字の読み、ことわざ、簡単な文学史などについて問うこともあります。

午後特別入試については、従来とは異なる出題で、大学入学共通テストや難関国立大2次、そして現在検討中の教育改革などを視野に入れた出題になります。

(ア) 漢字の書き取り、(イ) 漢字の読み、(ウ) 文章の読解(図表を含む)から出題し、文章の読解では、①文章等を正確に読み取り、ある程度まとまった字数で表現する力を測る問題、②①より解答の自由度の高い記述式問題を出題します。

記述問題は2問合わせて300字程度です。ある程度の字数に達しない場合は、採点されない場合もあります。

理科

出題の狙いは、小学校で学ぶ理科の内容と、身近な自然現象に関する知識の習得度や理解度を見ることです。また、理科に対する興味や関心の深さも、これらに関連していると考えています。

出題範囲は、小学校理科の全範囲、「物質・エネルギー」と「生命・地球」を主とします。

そのほかに、ニュースや新聞で取り上げられた事柄や日常生活における知識についても、学齢に相応した内容のものは出題の範囲として考えています。

主な出題形式は、自然現象やデータについて読み取ったり、小問による誘導に従ったりしながら解答していくものです。第1回から第3回までの難度に差はありませんが、第3回は論述で答える設問がやや多く、答えにくい印象を持つかもしれません。各大問は、基本問題や発展問題の小問を含みます。発展問題では、時事問題、データを読み取る問題、描画や作図で解答する問題などがあります。

次に、過去の出題データを振り返ってみます。「物質・エネルギー」からは、「物質の性質とその特定」や「水溶液の性質」など、実験をテーマにした問題が出題されています。物質の性質などの知識とともに、実験結果・データおよびその設定について読み取ることも大切です。また、「力のつりあい」や振り子をはじめとする「物体の運動」など、自然現象とその法則性を問う問題は、実験結果やその設定について読み取って答えるという形式です。「生命・地球」からは、「生物の生態や分類」、動物や植物などの知識問題や与えられたデータからその原因を問う問題を出題しています。

社会

本校の社会の出題については、社会に興味を持てるまで、繰り返し勉強し、基本的なことを正しく理解し、記憶していることを非常に重要な要素ととらえています。地理・歴史・公民の各分野から幅広く出題されるため、偏りのない、バランスの取れた学習の結果が求められます。入試が3回ありますが、3回ともほぼ同じ配点です（歴史約50%、地理約30%、公民約20%）。漢字は3分野すべてにわたり、正誤を重要視します。また、1~2行程度の記述問題もあります。

配点のいちばん多い歴史では、すべての時代が対象になります。時代ごとの問題だけでなく、テーマ別にいくつかの時代にまたがって出題することもあるため、どこかの時代だけを好んで勉強するのではなく、古代から現代まで幅広く勉強してください。漢字ミスが最も目立つのが歴史の問題です。歴史の用語は漢字で正しく書ける必要がありますが、惜しいミスが毎年多く見られますので気をつけましょう。たとえば、「井伊直弼」はみんなが知っている有名な人物ですが、「井伊」の漢字が「伊井」になってしまえば×になってしまいます。

地理の分野では、都道府県名や自然の地名、地形の特徴など基本的な知識を問う問題と、地図・グラフ・統計を読み解くことにより、じっくり考え、論理的に思考して初めて答えにたどりつくような問題もあります。白地図を使って基本的な知識を確認すると同時に、気候や産業・地形などについては、「なぜそうなるのか」を考えながら学習を進めてください。また世界地理についても、基本的な事柄は出題しますので、日本とのかかわりの深い国や地域について、参考書などを使用して学習しておく必要があります。

公民の分野では、基本的な知識を問う問題と、時事問題が出題されます。政治に関する問題が比較的多いですが、時事問題では、学校では学習しない内容を含めて出題するので、難しいものもあると思います。日々のニュースや日常の出来事に関心を持つことがとても大切です。

専修大学松戸中学校

算数

大問①では計算問題の小問を 4 問出題します。大問②では特殊算、数や図形の基本的な性質を問う問題、単位の変換などの小問を 5 問出題します。大問③から⑦までは、グラフを読み取る問題や規則性を見つける問題や、図形の問題などの文章題を出題します。2018 年度からは最後の大問⑦は、思考力・判断力・表現力を問う問題を出題します。

国語

例年どおりの傾向です。大問を 3 題出題。①の漢字の問題は読み・書き取りを合わせて 10 問出題。②は物語文、③は説明文で設問数はそれぞれ 10 問程度。難解な問題はなく標準的で、読解問題だけでなくことばの問題、文法の問題といった知識問題も文章の中から出題し、総合的な国語の力を試すものになっています。文章の内容もそれほど難しいものではないので、スムーズに読み進めることができると思います。解答方式については記号の選択や文章中からの書き抜きが多いですが、自分のことばを使って答える記述式の問題も出題しません。

理科

出題傾向は例年と大きくは変わりませんが、2018 年度入試から一部出題形式を記述式に変更し、記述問題を増やしています。物理・化学・生物・地学の各分野からまんべんなく出題します。問題の形式としては、基礎的な知識を問うものや、図を見たりグラフを読み取ったりして答える問題が中心で、形式・難易度とも例年どおり標準的な問題です。大問は物理・化学・生物・地学の 4 分野を各 1 題と、小問集合が 1 題になります。記述式の問題だけでなく簡単な絵やグラフを描く問題も出題します。

社会

2018 年度入試から大問構成を変更しています。難度は例年どおり基礎知識を問うものが中心となります。

- ・大問は総合的な社会（地理・歴史・公民の全分野）が 1 題、地理的分野が 1 題、歴史的分野が 2 題、公民的分野が 1 題の 5 題です
- ・各分野とも、基礎知識をもとに自分で考えて、「定められた字数の中にまとめる」練習をしておきましょう。また、「グラフや表を読み取る」学習をしておきましょう
- ・「時事問題」も直接または間接的に出題しています。昨年から今年（秋ごろまで）にかけてのニュースや話題になったことについても調べておくといよいでしょう
- ・総合的な社会の問題では、「地形図など地図を読み取る」学習をしておきましょう
- ・世界地理や世界史は出題しませんが、日本とかかわりの深い国や国際問題などは学習しておくことをお勧めします。

茗溪学園中学校

算数

計算問題を10問出題しています。小数や分数の計算、工夫が必要な計算の練習をしっかりとやっておきましょう。小問集合では基本的な力を確認しますので、さまざまな分野を幅広く学習してください。図形の面積の計算や、速さや割合に関する問題に慣れておくとい良いでしょう。例年どおり、グラフを使って解く問題や、規則性を発見する問題も出題します。自分の考えを文章で説明できるようにしておきましょう。

国語

漢字の読み書き、ことばや国語一般に関する常識を問う問題、文学作品の読解問題、説明的文章の読解問題を出題します。漢字は日常の使用頻度が高いものを中心に、出題しています。読解問題については、全体の主題や論旨にかかわる問題、部分の意味や理由を問う問題を中心に、本文を正確に読み取る力と、文中の内容を自分のことばで表現する力を見たいと考えています。

理科

物理では力のつり合いや、電流・磁石をはじめとする運動とエネルギーに関する内容全般を、化学では身近な物質の成り立ちや、気体の発生をはじめとする物質と変化に関する計算問題などを、生物では生物の体のつくりや生息環境、植物の育つ条件などを、地学では天文分野と気象・地質分野の内容を、それぞれ中心に学習しておきましょう。さらに、最近の科学にまつわる話題にも関心を持っておくとい良いでしょう。

社会

地理は、図表に関連する出題を含みます。実際に発生している環境問題や自然災害などにも関心を持ってほしいと思っています。歴史は各時代から出題されます。教科書に登場する歴史上の人物の活動や、歴史的な出来事の内容については、その影響に注目して整理するとよいでしょう。教科書に漢字で書かれている語句は、正確に書けるようにしておきましょう。また、例年、時事に関する総合的な内容の記述問題を、出題しています。社会的に話題になっている事柄について、自分の考えを持っておくようにするとよいでしょう。

麗澤中学校

算数

中学・高校で学ぶ「数学」に必要な基礎力を、計算問題と応用問題で問います。大問は①～⑤までの5題です。⑤は、答えのみでなく、途中の過程や考え方も記述してもらう問題です。基本問題である①や②でミスをしていないことが重要です。③以降で得点を重ねて高得点を得ることも大切ですが、まずは基本問題でしっかりと得点することが合格への第一歩です。

国語

大問①は、漢字を正確に書くことを問う問題です。教育漢字から出題します。大問②と③は、「国語」で学ぶところの“書く”などの表現力、論理的な思考力・分析力を重視し、(1)時間内に長い文章の趣旨を読み取る力、(2)時間内に正しく文章を書き上げる力を問う問題を出題します。

理科

「理科」で学ぶ科学的な知識とものの見方・考え方の基礎ができているかを問う問題を出題します。①は物理・化学・生物・地学と科学時事の小問集合です。小問は選択問題だけでなく、計算やことばで答える問題も出題します。②～⑤は、物理・化学・生物・地学の4分野からそれぞれ出題します。分野によっては、推測して考えることを求めます。

社会

「社会」で学ぶ知識と考え方の基礎ができているかを問う問題を出題します。①と②が地理的分野、③と④が歴史的分野、⑤が公民的分野という構成ですが、大問の順序などは変更する可能性もあります。各分野とも、基本知識をしっかりと押さえておくことが大切です。また、時事的な問題も出題します。

英語

英語入試は、インタビュー形式で行います。受験生1名に対してネイティブ・スピーカーと日本人の試験官それぞれ1名で行います。試験時間は10分ほどで、使用言語は英語のみです。実際のコミュニケーションを想定して、リスニング力・スピーキング力に加えて、会話中に英語で思考する力も求められます。英語で考える練習もしておきましょう。なお、英語の受験資格は英検®3級以上です。

「叡智」表現力テスト（第3回・第4回）

思考力型の記述試験です。文章（説明文・物語文）や絵、グラフなどを読み取る分析力と、それを踏まえて自分の考えを文章などで記述する表現力を問う問題です。また、課題文等を読み取る際には、多角的な視点から分析する力を求めます。なお、前年度に実施したグループワークはありません。

城北埼玉中学校

算数

全分野から偏りなく出題します。基本問題から標準レベルの問題まであります。計算力、図形の基本的な性質（面積・体積、辺の長さの比と面積の比の関係）の知識、文章題を理解する力を求めています。図形問題が明暗を分ける傾向にあります。演習問題を数多く解いておきましょう。グラフや作図を出題することもあるので、定規・コンパスの使い方に慣れておきましょう。

国語

文章問題が2題（文学的文章と論説文が各1題）あり、ほかは漢字の読み書きです。文章がやや長く、また設問に紛らわしい選択肢があるため、短時間で文章を読み、内容をつかむことが要求されます。といっても、特別なことをするのではなく、文章をていねいに読み、作者・筆者の訴えていることを正確に読み取る練習をしてください。

理科

4分野からまんべんなく出題し、配点は4分野均等です。知識を問う問題だけでなく、計算力・思考力を問う問題も出題します。実験に関する問題では、実験で得られたデータを処理する能力や、問題文を理解する読解力が必要です。実験の目的と方法、その結果からわかることなどを、きちんと理解する力を求めています。

社会

3分野とも、ほぼ同じ配分が出題します。記号選択と用語記述のほかに短文記述（20字前後まで）も出題されることがあります。受験生の読解力・思考力を問うため、分野にまたがる総合問題、融合問題とともに、地図や写真・グラフ・資料の読み取りの問題も出題されます。用語の解答はほぼ漢字指定されますので、内容の理解だけでなく、正確な書き取りが要求されます。また、時事問題も多く出題されます。ふだんから新聞やニュースなどを通じて、世の中の出来事に関心を持つようにすることで対策が可能です。なお第1回入試のみ、3分野の融合問題を出題します。

大妻嵐山中学校

算数

【一般入試・まなび力入試】

大問は4題程度で、それぞれにつき小問2～10問、合計25問を出題します。大問1は、中学数学を学んでいくうえで不可欠な計算問題です。小数や分数の計算を含むので、きまりに従って正確に答えを導き出す練習をしてください。大問2からは、さまざまな分野で必要となる基本の公式や考え方を、きちんと理解しているかどうかを見る問題です。特に後半は、文章題や規則性を見つける問題、グラフを読み取る問題、図形問題などで思考力・応用力を問います。全体的に難問・奇問というレベルではないので、日ごろから問題文をよく読んで、解き方の道筋を正しく順序立てて考える訓練をしておいてください。

【奨学生入試】

大問は5問程度で、それぞれにつき小問2～6問、合計20問を出題します。大問1と2は計算問題、数の性質、場合の数などの一行問題で、大問3～5は平面図形、立体図形、割合、速さなど、さまざまな問題が出題されます。計算問題は正確さだけでなく工夫をすることによって計算がしやすくなる問題です。数の性質、図形、文章題など、各分野からまんべんなく出題します。一つの単元をきちんと理解し、その単元における応用問題を解く力もつけておくとよいでしょう。単なる知識やテクニックを活用して解く問題だけでなく、整理する力や処理能力を問う問題もあります。このような能力は、問題文をしっかりと読んで問題の意味をとらえ、論理的に考えたり、正確に書き出したりするときにも重要になるので、訓練しておいてください。

国語

いずれの入試回も、語句問題では、文法、ことわざ・慣用句、類義語・対義語、四字熟語、語句の意味、文法などの知識と、漢字の読み書きについての出題を行います。文章読解問題は、文学的文章と説明的文章の2題です。文学的文章では、場面設定や登場人物の心情などについて読解し、考えを表現する力を問います。説明的文章では、論理的思考力を問いますので、長めの文章を読み、結論や要点をつかむ練習が必要となります。いずれの文章でも、聞かれていることに正しく答えることや、本文に即して登場人物の心情や筆者の主張を理解する力が求められます。また、抽象的な表現に対して、それを説明するための具体例を挙げる力、考えを的確に文章で表現できる力も養っておきましょう。

理科

大問は4題で、それぞれにつき小問5問程度を出題します。大問は、物理・化学・生物・地学の各分野から出題しますが、複数の分野にまたがる複合的な問題も出題します。小学校で学習した内容について、実験や図表およびグラフなどを分析する論理的思考力を問う問題になります。教科書に出てくる基本的な用語はもちろん、実験の方法や実験の結果などもしっかりと学習しておいてください。科学的なものの考え方を養っていくためにも、ふだんから自然に対して関心を持ち、興味深く観察して、疑問を持って調べようとする姿勢を心がけましょう。

社会

地理・歴史・公民の各分野から、基本的知識をどの程度身につけているかを確認する問題を出題します。各分野からの出題を通して、①社会のしくみ、歴史、地理に関する基礎的な知識、②それらの知識や情報を用いて、社会的な事象について理解する力、③日々変化する社会情勢に興味・関心を持ち、それらについて考える姿勢、④理解したことや考えたことを説明する力が定着しているか、を問います。過去問題をはじめとするさまざまな問題の演習に取り組みましょう。また、統計・グラフ・図表などを読み取る練習もしておきましょう。

大宮開成中学校

算数

「解く前にきちんと考える」必要のある問題を出題しますが、計算力・基礎知識・図形処理能力など基礎・基本重視であることは変わりません。大問 7 題構成で、大問①は「計算問題」。大問②・③では「応用小問」で特殊算・図形について問います。大問④～⑦は文章題で、割合・図を読み取る問題・図形の問題などを出題します。前半部分の大問を確実に、後半部分の大問を 1 題でも多く解答することが高得点の鍵です。

国語

大問 3 題構成と難易度は変わりませんが、新たに思考力を問う問題を織り込みます。2020 年度の大学入試改革を見据え、単なる文章読解力以上の力をみるためです。大問①「漢字・ことば」。漢字では「とめ・はね・はらい」が正確に書けているか、ことば問題では、グラフを比較しその特徴を表現できるかを問います。大問②「論説文」では文中のことばの意味・語句や文の補充・指示語の内容指摘・内容理解について、大問③「小説」では登場人物の心情や人物像・表現の特徴などについて問います。字数指定の記述問題は 50 字程度です。ある程度スピードも大切なので、取り掛かる大問の順を各自工夫してください。

理科

物理・化学・生物・地学の 4 分野からまんべんなく出題し、基礎知識だけでなく文章やグラフの読解力、計算力を問います。見慣れない題材も出てきますが、資料をきちんと読み取り、論理的に考えられれば解答できる内容です。大問 5 題構成で、大問①は物理・化学・生物・地学の「小問集合」、大問②～⑤がそれぞれ、「生物」・「物理」・「地学」・「化学」の各分野の問題になっています。とくに大問③「物理」と、⑤「化学」では計算力を発揮してください。

社会

地理・歴史・公民／論述の 3 分野から基本的な知識を問います。地理分野では地形や気候、産業などについて地図や資料の読解力を問います。歴史分野では、2019 年度は「いつどこで誰が何をした」だけでなく、史料からその原因や理由、結果や影響まで問います。公民分野では、憲法や政治制度・経済のしくみなど基本事項を問いますが、最後の論述（50 字）では新聞・ニュースなど時事的な事柄について、自分の意見・さまざまな立場での意見を述べられる力が必要です。問題数も多いので、大問の取り組む順番を工夫してください。

開智中学校

算数

一部、途中の考え方を聞く問題も出題します。前年度と同様に先端特待入試でも小問集合を出題します。正確に、スピーディーに計算できるように、日ごろから繰り返し練習をしておきましょう。答えを出した後、検算をする習慣をつけておくと、得点アップにつながります。計算過程をていねいに書き、ミスを見つけやすくするなど工夫を心がけてください。また、過去問題を解いておくと、傾向がつかめると思います。

国語

基礎力をしっかり身につけましょう。漢字やことわざの知識を増やしてください。また、自分の知らないことばや語句に触れたときは、辞書で調べるようにしましょう。たくさんのことばを知ることは、豊かな表現力にもつながります。次に、自分の書いた文章は必ず読み返しましょう。そうすれば、主述の関係や「てにをは」の間違いに気づきます。特に試験では時間が気にかかりますが、書きっ放しにするのではなく、読み返すことで、小さなミスを防ぐことができます。

理科

基本的には、各分野からまんべんなく出題する予定です。基礎的な知識を問う問題はもちろんですが、リード文から正しく読み取る力や、データを読み取ってグラフを描くなどの力を見る問題、複雑な計算問題などもあります。また、幅広い知識と思考力を兼ね合わせた総合的な問題もあるので、応用問題への対策も欠かさずやっておいてください。時間配分を考えて、解ける問題から解いていきましょう。

社会

まず、基礎を固めることを心がけてください。きちんと知識が定着するまで繰り返し復習することも重要です。また、自分で説明をする問題では、基礎的な内容をしっかり身につけ、その知識を使って考えることが正解につながります。地理・歴史・公民分野からほぼ同じ割合で出題するので、不得意分野をつくらないことも大切です。過去問題をしっかり解いておくと、傾向もつかみやすいと思います。

春日部共栄中学校

算数

以下のような大問を 6 題出題します（各回 100 点満点）。

1. 単純な計算問題…分数計算を正確に解けるようにしておきましょう。
2. さまざまな分野の小問集合…時間配分に注意してください。
3. 回転体の体積や表面積を求める問題…図形の動く様子をとらえられるようにしてください。
4. 数え上げて法則を見つける問題…少し時間をかければ、得点がしやすい問題となります。
5. グラフを読み取る問題…動点が時間によってどのように変化するかを理解できるようにしておいてください。
6. 定義演算の問題…演算の意味を与えられた例から読み取れるようにしておきましょう。このうち大問 3 については部分点があるので、図を描いて考え、途中式をきちんと書く練習をしておくといいでしょう。傾向は例年と変わりません。

国語

大問を 4 題出題します。各回 100 点満点で、形式は以下のとおりです。

1. 漢字の書き取り問題
2. 説明的文章
3. 物語的文章
4. グラフや表を読み取り、その内容を自由に表現できる問題

大問 2、3 ではともに、文章を読み、理解し考え、表現する力を問います。2016 年度までの過去問とほぼ同様ですが、2017 年度より大問 4 が新たに設定された関係で、記述の問題が少なくなっています。大問 4 は「グラフや表を読み取り、その内容を自由に表現する問題」です。読み取った内容を考え、しっかりとした文章で表現できるかが問われます。内容を読み取る練習よりも、しっかりとした文章を書く練習を行っておくとよいでしょう。

理科

大問を 4 題出題します（各回 50 点満点）。

1. 運動とエネルギー
2. 物質と変化
3. 生物と環境
4. 地球と宇宙

各分野ともに、基礎力を問う問題と、応用力を問う問題で構成されていますが、基礎力を問う問題を中心として出題しています。出題の傾向に変更はありません。基礎力をしっかりと身につける一方、過去問を何度も解き、図や表から関係性を見つける練習、説明文の中からキーワードを見つけてわかりやすくまとめる練習をしておきましょう。

社会

大問を3題出題します（各回50点満点）。

1. 地理分野（20点）

日本の地形、気候、農業、工業、都市の範囲が出題の中心となります。特に日本の都市や地形の名称は必ず出題するので、確認しておきましょう。

2. 歴史分野（20点）

各時代の特徴をしっかりとつかみ、歴史の流れを理解することが重要です。また、史料や写真を使った問題も多いので、資料集や参考書に載っている史料や写真に目を通しておくとよいでしょう。

3. 公民（政治）分野（10点）

憲法に関する問題が中心となります。日本で行われている政治と憲法のかかわりをしっかりと理解しておきましょう。出題の傾向に大きな変更はないので、過去問をしっかりとやっておくことが、いちばんの対策となります。

埼玉栄中学校

算数

出題形式は例年どおり。基本的な計算問題は3～7問です。文章問題では、濃度、割合、速度、整数の性質、比などの学習をしておいてください。また、面積・体積の問題もしっかり解けるようにしてください。部分点は基本的にありませんが、一部、記述式の問題を出題する予定です。

国語

文章読解は説明的文章と文学的文章(小説)の2題です。説明的文章は段落の吟味、語句の意味、接続詞などが問われます。文学的文章は心理描写の把握が中心です。慣用句にも注意しましょう。漢字の書き取りは10問出題します。ことばの問題も出題します。

理科

4分野(物理・化学・生物・地学)からまんべんなく出題します。設問は選択式と記述式の併用型です。基本的な問題や、実験・観察についての出題が中心です。また、身近な生活のなかで見られる事象や環境問題、新聞・ニュースにも関心を持ってください。

社会

大問は3題で、3分野(地理・歴史・公民)からそれぞれ出題します。地図や資料を読み取る問題や、時事的要素を含んだ問題もあります。

栄東中学校

算数

入学後の数学指導の観点から「規則性」等の数の性質や「図形」を出題します。この単元は、合格者と不合格者の正答率に最も差が出る問題です。難関大クラス A・B 日程では、**1**小問集合の出題数を東大クラスより増やしています。また、**2**以降の(1)も基本的な考えを問う問題になっており、比較的点数の取りやすい問題になっています。また、東大クラスでは記述問題や図示する問題を出題することがあります。

国語

各日程ともに、漢字や語句、文法事項などの知識分野で、配点の 2 割程度を出題します。単純に知識を問う問題もあれば、その場で思考をはたらかせて解く問題もあります。文章題は原則として、文学的文章と説明的文章の 2 題構成となっています。解答方式は、抜き出し・選択肢・記述が混在していますが、東大クラス入試では記述の割合が多くなります。また、本校では入学後、コミュニケーション能力や創造力育成のため、グループ学習や発表の機会を多く設けています。そのため、記述式の問題では、文章中から正解を読み取って表現する問題だけではなく、自分の経験を踏まえて意見を記述するなど、「自分で正解を創る」問題を出題することがあります。

理科

各日程ともに、物理・化学・生物・地学の 4 分野から出題します。それぞれの分野に関する観察や実験を題材に、自然の事物や現象について考察していく出題が中心となります。また、グラフや表を読み取る問題もあります。配点の目安は、物理・化学・生物が均等 (28%×3 分野=84%) で、地学が少なめ (16%) となります。東大クラス・難関大クラスともに出題傾向は同じです。東大クラスの問題には、計算量が多いものが含まれています。

社会

各日程ともに、地理・歴史・公民の各分野から出題します。配点の割合は 2:2:1 で、前年度までと変更はありません。また出題傾向についても大きな変更点はありません。地理では、日本の地理を中心に、日本とつながりのある国についても問います。歴史では、時代を限定せず、古代から現代までが出題範囲です。歴史的事項の並べ替え問題を出題するので、人物や時代ごとに主な出来事をまとめ、流れをつかんでおいてください。公民では、政治分野を中心にしますが、東大クラス入試では経済・国際分野も出題範囲に含みます。憲法の条文を問う問題がありますので、基本的な条文を確認しておくといでしょう。本校では入学後、グループでの学習や発表などの機会を多く設けています。そのため、各日程で記述式の問題を設けています。資料を読み取って記述したり、歴史的事項の流れや原因を記述したりするものだけではなく、自分で考えて表現するものも含みます。

西武学園文理中学校

【一貫クラスと特選クラスの入試問題の違い】

算数のみ、一貫クラスと特選クラスは異なる問題です。国語・理科・社会は同一問題となります。

算数

試験時間は50分・配点は100点です。中学で学習する数学では、法則性など論理的理解を深めていくので、その前提として計算を正確に速く行うことが大切な要素となります。

【一貫クラス入試】

① () を含む計算を正確に行うことが要求されます。

② 応用問題も複雑な問題はありません。

テクニックに頼らず、順序良く解いていけば、法則が見えてきて正解にたどり着く問題です。

【特選クラス入試】

少し難しい応用問題を出しますが、全体を把握する、多方面から考えるなど、工夫すれば解答の糸口が見えてくる問題です。

〈設問内容〉

1. 小問集合：計算を中心に、基礎的問題を出します。

2～6. 応用問題：相似図形、速さや濃度、グラフの利用など、さまざまな分野から出題します。その中の小問(1)は基本の問題です。

国語

試験時間は50分・配点は100点です。国語は、他人とのコミュニケーションはもちろん、みずからの頭で思考を巡らす根幹となるものです。その意味で、ことばの基本的な使い方や、ことばで表された気持ちの読み取りなどに重点を置いた問題を出題します。

① 接続詞や副詞など文法事項を含め、正確なことば遣いを問います。

② 登場人物の立場に立った心情の変化や作者の思いを問う問題を出します。

〈設問内容〉

1. 評論：接続詞や副詞など文法に関する適語補充、キーワードの言い換えです。

2. 小説：登場人物の心理変化、作者の言いたいことの全体把握です。

3. ことわざ・故事成語：空欄補充や意味を問うものです。

4. 漢字：日ごろよく見かける漢字、使っていることばの漢字を中心に出題。とめ・はねをきちんと書いてください。

理科

小学生の段階として身につけてほしい基本的な知識や理屈、理科的なものの考え方を問う問題を出題しています。日常の理科的事柄に関心を持ち、日ごろから「なぜ・どうして」を大切に学習してください。物理・化学・生物・地学の各分野から、まんべんなく均等に基本的な問題を出題しますので、得意な分野から取り組むなど工夫してみてください。

〈設問内容〉

1. 物理的問題：乾電池や電球の電気、ゴムやばねの力、光の性質などです。
2. 化学的問題：物の溶け方、水溶液の性質、気体の発生などです。
3. 生物的問題：昆虫や植物の生活・成長、季節や環境とのかかわり、からだの仕組みなどです。
4. 地学的問題：太陽・月・星の位置の変化、天気の様子、地層、火山や地震の変化や特徴などです。

社会

中学では、覚える勉強から「なぜ・どうして」を考える、より深い学習になります。日ごろから「なぜ・どうして」を大切に学習してください。従来どおり歴史・地理・公民からまんべんなく出題します。歴史・地理・公民の分野の枠にとらわれない「融合問題」を出題しています。なお、「融合問題」では論述があります。

※理科と社会は合わせて 60 分、配点は各 60 点です。時間配分についてあらかじめ考えておくとよいかと思います。試験会場には時計を必ず設置しますので、何時になったら次の教科を始めると決めておくのも一つの方法です。

獨協埼玉中学校

算数

小学校で学習した基本事項を確認するという方針で、大問を4題出題します。1番と2番は結果のみを答える問題で、3番以降の問題では結果だけでなく、途中式や考え方を書いてもらいます（第3回入試は、4番の問題で途中式や考え方が必要になります）。順序立てて自分の考え方を表現できるようにしておくことが重要です。途中式には部分点があります。

国語

物語文と説明文から読解2題と、漢字・文法・語句・ことわざなどの言語に関する問題を出題します。説明文は筆者の考えや主張を読み取ることが必要です。物語文は主に場面の転換、心情の変化についての読解で、どちらも記号・空欄補充・抜き出し・記述などの解答方式です。文章の中でも語句や文法の問題を出題します。言語に関するものは基本的な内容です。

理科

物理・化学・生物・地学の4分野から出題します。分野を複合した問題を出題することもあります。その内容は以下のとおりです。

- ①グラフの読み取り、比例・反比例、規則性などを利用する計算問題の出題。
- ②知識問題を中心に、日常生活のなかで見かける科学的現象や、それらを観察する力を問う問題など、さまざまな角度からの出題。
- ③実験の意味や器具・薬品の扱いなど、思考の過程を重視した出題。
- ④小学校で未習の内容であっても、詳しい説明文を読んで、順を追って考えることにより理解できる出題。

社会

3分野からの出題です。語句や記号で答える問題を基本として、短文で答える記述問題を3分野から各1問出題します。3分野に共通することとして、表・グラフを読み解く力を身につけてほしいと思います。地理では地形図を読み取る力を、歴史ではテーマに沿って流れを理解する力を、公民では時事問題を柱に、それに関連して公民分野全般を理解する力を、それぞれ養ってほしいと考えています。